



大学院医学薬学研究所

准教授 **藤田美歌子**さん
Fujita Mikako

●プロフィール

- 1985年 千葉大学理学部卒業
- 1988年 筑波大学修士課程修了
(勸相模中央化学研究所入所)
- 1993年 京都大学大学院薬学研究科入学
- 1998年 エイズウイルスの研究を始める。
- 1999年 徳島大学助手
- 2006年 熊本大学大学院医学薬学研究所助教

新しいエイズの治療法を見つけない。

一通の手紙から

藤田さんは千葉大学で化学を学びました。高校時代の化学の先生の授業がとても面白くて、その時に化学の面白さに目覚めたのだそうです。1985年千葉大学卒業後、筑波大学修士課程に入学。同大学修士課程修了後、財団法人・相模中央化学研究所に就職し、5年間、抗生物質の開発に携わりました。ここでの薬の合成の仕事が藤田さんと薬との出会いでした。そして、もっと薬について学びたいと考えるようになりました。藤田さんは、京都大学大学院薬学研究科の教授に、自分が研究したいテーマを手紙に書きました。その手紙がきっかけになり、1993年、京都大学大学院薬学研究科に入学し、1996年に博士号を取得します。藤田さんはエイズウイルスがどうやって増えていくのかを学び、阻害剤の開発など、エイズウイルスの研究に入りました。1997年に東京大学医科学研究所で分子生物学を学び、1999年から7年間は徳島大学の助手として過ごしてきました。

努力すれば、道は開く

向き不向きなど考えもせずに、若いころから、研究者というものが素晴らしい職業だと思っていたそうです。京都大学院時代には生物実験をするようになり、進めば進むほどますます研究がおもしろくなっていきました。年齢とともに気負いが抜けて、「以前よりもまっさらな気持ちで、本当に研究が楽しいと思うようになってきましたね」と藤田さん。師にも恵まれ、男性研究者がほとんどの分野ですが、特にここ10年くらいは「女性だからということで、いわゆる差別的なことは全くないですね」。苦しいときがなかったわけではないけれど、「なんだか、いつも、もがいているうちに、いきなりぱっと開けるといっか抜け出ているといっか、そんな感じですね」。休日には英会話学校に通い、それが良い気分転換になっているそうです。

多くの命を救うために

エイズウイルスの研究が米国で始まって25年ほどになりますが、今なお世界では大勢の人たちが発症し、亡くなっているのが現状です。エイズウイルスの増殖機構の解明。エイズウイルスがどうやって増えていくのか、そのプロセスを藤田さんは研究しています。「とても競争の激しい分野なので、人のやっていないアプローチから新しいエイズの治療法を見つけない。遠くて大きい目標ですけど、それで大勢の人たちを救うことができたらいいと思います」と、真直ぐな目をしておっしゃいました。

これからもコツコツと積み上げる研究が続きます。



実験中の藤田さん